

中国法定感染症発病概況 2017年10月

The Japan Research Institute (Shanghai) Solution Co., Ltd.
リサーチ・コンサルティング部門

■発病総数は前月比-1.5%だが、例年より非常に多く発生

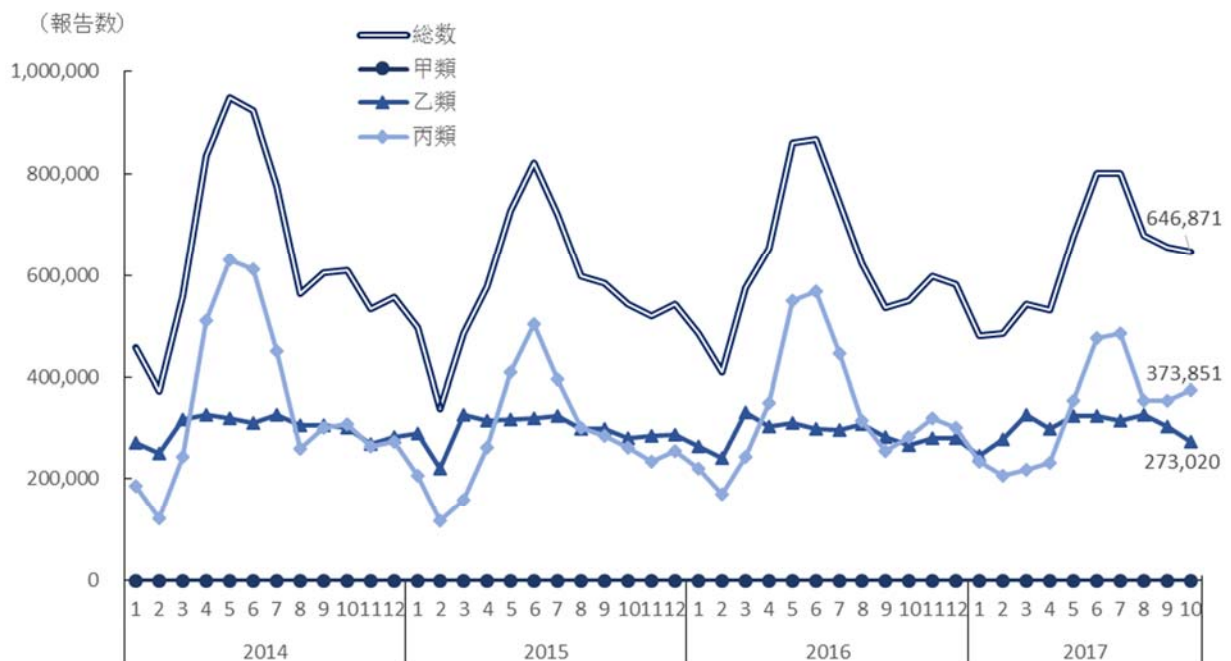
当月発病総数は646,871例であり、前月比-1.5%と減少。一方で、過去平均（過去3年の同月および前後月の9カ月平均）比は+14.5%で、過去平均標準偏差（SD）も+2.5であり、発病総数自体は例年に比べ非常に多い。（図表1）

■甲乙類は例年同程度、丙類は例年より非常に多く発生

類型（甲乙丙）別*では、甲乙類は273,020例あり、前月比-9.8%。甲類の発生は無し。同月比では過去平均比-4.4%、過去平均SD-1.0で例年同程度であった。丙類は373,851例で、前月比+5.6%。同月比では過去平均比+33.9%、過去平均SD+3.6であり例年に比べ非常に多い。（図表1）

*）中国では、病気のうち39の感染症を甲類2（ペスト、コレラ）、乙類26、丙類11に分類。2013年11月1日に、乙類であった新型インフルエンザ:A(H1N1)pdm09を丙類のインフルエンザに集約し、乙類に鳥インフルエンザA(H7N9)を追加。2016年1月からは、ウイルス性肝炎の内訳にD型肝炎を追加。（本資料のウイルス性肝炎は、A型、B型、C型、D型、E型、その他肝炎を合算。）

図表1 発病数

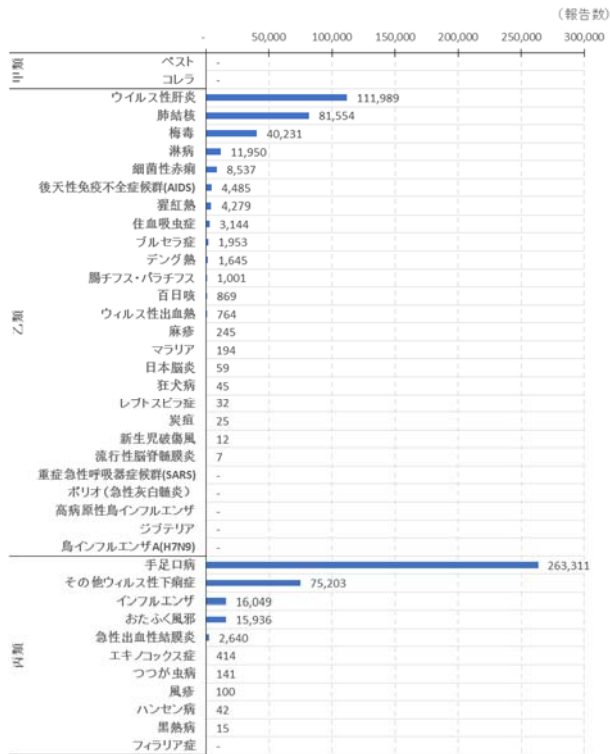


（資料）中華人民共和国国家衛生計画生育委員会「全国法定伝染病疫情概況」を基に日本総研作成

■発病最多は先月と同様手足口病であり、例年に比べても非常に多い

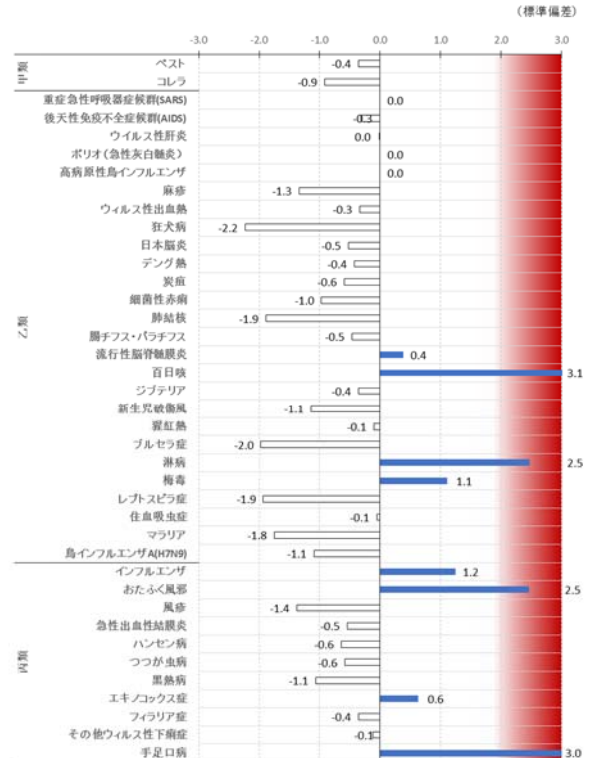
感染症別では、手足口病が263,311例と最も多く、前月比+20.3%。過去平均比+51.9%、過去平均SD+3.0であり、非常に多く発生した。(図表2、図表3)

図表2 感染症別：発病数（当月）
＜類型別降順＞



(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会「全国法定伝染病発病概況」を基に日本総研作成

図表3 感染症別：過去平均SD（当月）
＜統計記載順＞



(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会「全国法定伝染病発病概況」を基に日本総研作成
(注1) 過去平均は過去3年の同月および前後月の9カ月平均 (注2) SD=標準偏差

■例年に比べ非常に多く発生した感染症は 4つ

例年に比べ非常に多く発生（過去平均SDが+2.0以上）した感染症は、以下の4つ。(図表3)

	過去平均SD	
	前月	当月
百日咳	✖ + 3.3	✖ + 3.1
手足口病	✖ + 2.0	✖ + 3.0
淋病	✖ + 3.5	✖ + 2.5
おたふく風邪	✖ + 8.0	✖ + 2.5

■前月、例年に比べて非常に多く発生した8つのうち、当月該当しない感染症は以下の4つ

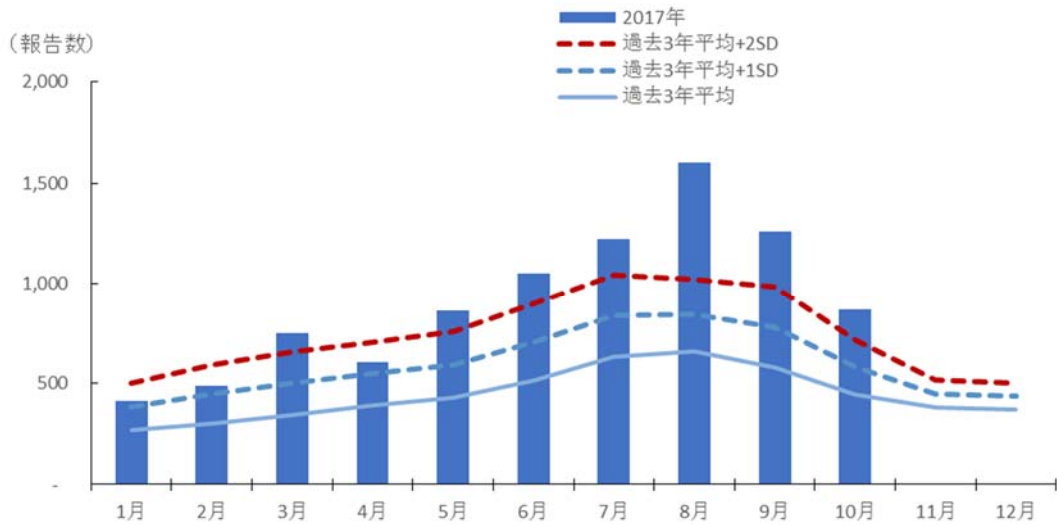
前月は非常に多く発生していたが、当月は過去平均SDが+2.0未満となった感染症は、以下4つ。(図表3)

	過去平均SD	
	前月	当月
後天性免疫不全症候群(AIDS)	✖ + 2.5	✔ - 0.3
梅毒	✖ + 3.2	✔ + 1.1
インフルエンザ	✖ + 10.3	✔ + 1.2
エキノコックス病	✖ + 3.2	✔ + 0.6

■百日咳は 6 カ月連続で例年より非常に多い

百日咳は 869 例で前月比-30.9%。しかし、6 カ月連続して例年より非常に多く発生している。(図表 4)

図表 4 発病数 (百日咳)

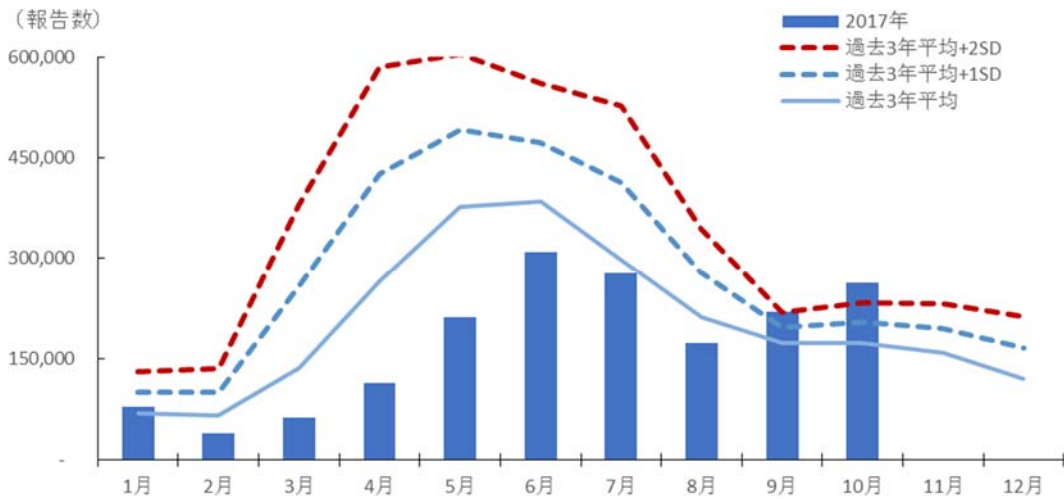


(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会「全国法定伝染病疫情概況」を基に日本総研作成
(注1) 過去平均は過去3年の同月および前後月の9カ月平均 (注2) SD:標準偏差

■手足口病は 2 カ月連続で例年より非常に多い

手足口病は 263, 311 例で前月比+20.3%。2 カ月連続して例年より非常に多く発生している。(図表 5)

図表 5 発病数 (手足口病)



(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会「全国法定伝染病疫情概況」を基に日本総研作成
(注1) 過去平均は過去3年の同月および前後月の9カ月平均 (注2) SD:標準偏差

本資料は情報提供を目的に作成されたものであり、取引の誘引を意図したものではありません。また、2017年11月13日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものであるが、内容に誤りがないことを保証するものではなく、情報の正確性・完全性・網羅性・商用性については、一切の保証をするものではない。